
~ 恋華 ~ 極上男の裏側は、意外に純情でした ~

佐伯立夏

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

～恋華～極上男の裏側は、意外に純情でした～

【Nコード】

N9267U

【作者名】

佐伯立夏

【あらすじ】

朝、起きたらお持ち帰りされてるって、場面から始まる。

少し貞操観念の低い立木綾子とそんな綾子の好みのタイプ佐々木健吾のゆるふわストーリー。

起きてみたら

現在、少しだけ混乱中。

朝、何時も通りに起きたつもりが、何時も通りじゃなかった。

微妙に、頭も痛い。

ええーっと、何でこうなった？。

うん、とりあえず冷静になって、現状確認してみよう。

今、私は裸。

そして、居るのは高そうな内装の部屋のベッドの上。

そして、そして、これかなり重要!!。

私の隣に、男が寝てる。

しかも、男も見た感じでは全裸と思われる。

床に、私と男の服が散乱してる。

……ああ、こりゃ、やつちまったなあ。

ため息を付きそうになる。

なんか、昨日の記憶が無い。

正確には、行きつけのバーで、バーボンのロックを続けて、八杯飲
んでたって、記憶はある。

問題なのは、それ以降の記憶がないことだ。

ふっと、ベットボードを見ると、男のモノだろうタバコとジップを
発見。

悪いと思いつつ、一本拝借して、火をつける。

煙をくゆらせながら、これからどうするか考える。

何も飲んで、酔っ払った勢いから、お持ち帰りされるって、ケースは、今回が初めてじゃない。

八回に一回のペースで、こういう事を私はやらかす。

だから、友人達からは、あんたは、一人飲み厳禁！！とキツく言われてる。

だが、昨日に限っては、ある理由から、どうしても、酒が飲みたかった。

しかし、友人達とは全員予定が合わず、電話した友人全てに、「もう今日は、諦めて帰りなさい。絶対に、一人で飲むな！」と、口うるさく言われた。

でも、私はどうしても、酒が飲みたかった。

だから、友人達の言葉を守らずに、後から全員に怒られるのを覚悟して、一人飲みをした。

すると、止める相手が居ないからか、思いの外、酒が進んだ。

で、結果的に、この状況。

でも、前後不覚になるまで、飲んだのは、昨日が初めてだし、記憶が無いなんて、ケースも今回が初めてだ。

だが、幾ら初めての出来事があるうが、お持ち帰りされたって、事実は変わらない。

さて、これからどうするか。

それを決めなきゃいけない。

本当なら、男が起きる前に出て行った方が良いに決まってる。

でも、隣に寝てる男の横顔を見ると、その起きた姿も見たくなる。

なにせ、良い男なのだ。

酒で、前後不覚になった自分を良いようにした男ではある。

だが、容姿が良い。

自分の悪い癖の一つに、良い男には弱いという癖がある。

それに、男運が悪いのか、私には顔は良いけど、性格に難ありの男ばかりが、寄ってくる。

自慢にはならないが、今まで、貢がせ男だとか、デートDV男だとか、その他ありとあらゆる様々なダメ男と、つき合ってきた。

友人達からは「あんたの面食いは筋金入り、しかも、ダメンズばかり好きになるしね」なんて言われる始末。

逃亡の先には

ある意味で衝撃の出来事から三日。

私は今、会社に居ます。

そして、何故か窮地です。

あの夜の結果だけを言うなら、私は男が起きる前に逃げ出した。

うん、ヤリ逃げだぜ。

アゝハゝハハ。

って、おちゃらける場合じゃなかったよ。

今、私の目の前には、三日前に見た顔があります。

うん、見間違えや人違いじゃなければ、酒の勢いで一夜の過ちをした相手が居るのです。

何故に？。

何故に、あの時の男が私の前に、現れなきゃならんのだ？。

ほらあゝあちらさんも、驚いた顔してるし。

神様の意地悪！！。

何で、今なんだよ。

って、そんな場合じゃねえわ。

とびきりの営業スマイルを浮かべ。

「初めまして、今回の商談を担当させていただく立木と申します」
と、言うしかあるまい。

うん、今はプライベートじゃないからね。
お仕事だからね。

と、言外に含ませてみたら、相手も。

「藤和の佐々木と申します」

と、返してくれました。

うん、大人の対応だよね。

仕事モードで、対応したからか、特に何かを言われる事なく、スムーズに商談を進められた。

うん、帰り際に相手が何かを言いたそうだったけど、黙殺しましたよ。

何で、一夜の過ちの相手が取引先の人なんだろうか？。

本当に、神様は意地悪です。

いや、分かってますよ。

全ては節操なしな私が悪いって、そんな事は、誰に言われずとも、自分が一番よく、分かってます。

実を言えば、あの後すぐに、一人飲みをした事も、友人達にはバレた上に、一夜の過ちもバレました。

はい、めちゃくちゃ怒られましたよ。

「「「あんだ、バカ？いい加減にきなさいね？」「」」

と、とびきりのスマイル付きで、三人から言われました。

はっきり言って、怖かったです！。

自分が悪いのは重々承知してますよ。

でもね。

怖いものは怖いのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9267u/>

～ 恋華～極上男の裏側は、意外に純情でした～

2011年8月14日15時02分発行